

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームさわやか)

事業所番号	0692700024		
法人名	株式会社 アクト		
事業所名	グループホーム さわやか		
所在地	山形県西置賜郡飯豊町大字萩生4284-3番地		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 30 日	開設年月日	平成 24 年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、畑や花壇などがあり、旬の味を楽しんで頂いている。隣接して医療機関があり、密な連携が取れており、急変時や有事の際には素早い対応が可能となっている。又、施設長が看護師であり、近郊に居住していることから24時間の対応が可能。地域の住民の方や地区とも交流があり協力体制が出来ている。個性を尊重し、その人がその人らしく入居者主体の生活が送れるよう支援している。役割を持ち生きがいを感じながら生活出来るよう個々の能力や状態の把握に努め、ホーム内ばかりで生活するのではなく、外出や散歩等戸外での活動機会を多く取り入れている。又、外出は個別でも対応しており、より個性を尊重した関わりに配慮している。入居者同士で手を取り合いながら生活出来る、明るく楽しい笑顔の絶えないホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「お客様の尊厳を守ります」「心に寄り添い笑顔で接します」を理念として、利用者が自分らしく、住み慣れた地域で暮らせるよう支援しています。日中、ちょっと家に寄るように家族等が立ち寄りてくれ、職員と言葉を交わし、いつの間にか帰っていく、そんな様子が常に見られています。すぐ近くのケアハウスに住む人達とも交流が増え、今年度から事業所2階に有料老人ホームが併設され、今後の付き合いが期待されます。利用者の居室にある仏壇には、その日のおかずが供えてあるなどの心配りが感じられます。この場所で皆が持つる力や知恵を出してゆつくり暮らしていこうという思いを持って支援を続ける事業所です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 1月 29日	評価結果決定日	平成 26年 2月 14日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲示されているが、全職員把握とまではいっていない為、再度理念の共有を図り業務に繋げて行く。	開所2年目となり、一人ひとりの関わりは行っているが、職員の統一した支援が出来ていないと感じられる場面があり、今後具体的な目標を持って共有に結びつけ、寄り添った支援を続けたいと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加。天気の良い日は散歩をしたりしている。地域のボランティアの慰問等交流を図れているが、状態の変化により日常的とまではいっていない。	かつて行われていた集落の催しが少なくなってきた中で、夏祭りに利用者の思い出を連れて神社の獅子舞が立ち寄ってくれ、地域の人々のバックアップを感じている。中学生の職場体験を受け入れている。	地域資源としてどんな事があるかを考え、その力を借りながら、事業所から発信する事はないか等を検討し、交流の充実を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進委員会の開催の際に会話や質問に応じている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	口頭のみではなく、ビデオで映像を見て頂き、意見を頂いている。	会議は、利用者、家族等、自治会長、民生委員、介護経験者、役場福祉課の参加を得て行っている。状況報告や、日頃の暮らしの様子をビデオで見てもらい感想や意見を得ている。職員はケア会議の時、報告を受け共有している。地域交流で行事に参加する事なども話題に上がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の方へ伺った際、ホームの現状を伝えたり、わからない事、曖昧な事に関しては問い合わせをし確認。知識の向上に努めながら連携を図っている。	役場の福祉課とは、運営推進会議録を持参の折、面談し、状況を伝え理解を得ている。事務手続きなどわからない事を教えてもらい、双方向的な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は施錠せず、鈴等で対応している。すぐ前が道路で危険も予測されることから、外に出て行こうとする入居者には寄り添って一緒に歩く等、見守りを行っている。今年度は研修に参加できなかった。	事業所の前が道路のため予測される危険もあり、家族等とはリスクについて話し合い理解を得ている。シグナルに気付いた時は、職員と一緒に散歩したり家の近くまで行ってみるなど1対1の対応をしている。また地域の方にも気付いた時には同行をお願いするなどして鍵をかけず、拘束せずの暮らしを保っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	体調が悪い時は早退したり、希望休日や有休休暇を取りフレッシュを図っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当ケースはないが、必要性があれば家族への説明を考えている。今年度は研修に参加できなかった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間がかかることを予め説明しており、時間をかけて説明を行っている。説明後には必ず不安や疑問がないか尋ね、理解を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には運営推進会議や面会時に近況報告や意見・要望を聞くようにしている。	面会時に日頃の暮らしぶりを報告し、これからの事を話し合ったり、なかなか会いに来られない方には電話で連絡を取り、意見や要望を聞いている。お礼の言葉などが職員のやる気を増し、またミーティングで報告、申し送りノートで共有して、サービスに反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時にお茶を飲みながら意見を言える関係性になっている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時間外の手当てが支給されている。職員の状況を把握している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加。 経験年数に応じ、適切な研修が受けられるよう配慮されている。	新人には、マンツーマンでマニュアルの説明や介護技術などを教えている。外部研修は経験年数や希望を取り入れて受講し、会議で報告している。ケアプランの検討などでケアを統一し全体での介護力アップに繋げている。	利用者とのコミュニケーションが豊かにして、毎日の暮らしが楽しくなるよう内部研修の充実を希望したい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ブロック会、交流会を通じ、意見・情報交換を行っている。 事例検討会をしながらホーム外の職員の意見を聞き、より良い援助が出来る様取り組んでいる。	置賜地区グループホームブロック会で、管理者は情報交換等を行っている。職員も事例検討会や施設実習に参加し、交流を通して質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人・家族との面接を行っており、時間をかけて聴き取りを行っている。入居後知っている顔があり安心できる様な配慮をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際には、必ずホームの見学をして頂き雰囲気を見て頂いた上、時間をかけて説明、会話を持ち、納得の上で申し込みして頂いている。入所時も同様に必ず不安や疑問を尋ね、確認してから入居して頂いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み後も定期的に状況把握しており、状態によっては他のサービスをお勧めしている。申し込み段階で、他にどんなサービスがあるのか、当ホーム利用以外の情報も提供している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に家事手伝いをして下さっている。共に学び支え合う関係構築ができています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会時等、時間の許す限り会話する場面を設け、近況報告を兼ねながら意見・悩み等を聴き取りしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行ったりと、個別に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルとならないよう、職員が間に入る事もある。できる能力を最大限使えるように協力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の経過確認、面会等を行っている。連携先及び家族との連携・調整も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族等から今までの生活習慣や生活歴を聞き、更に日頃の会話から希望や要望を聴き取りしている。個別に要望・要求に対して対応できるよう配慮している。	利用開始時に生活歴を聞き、アセスメントシートに記録している。関わりの中での気付きや面会者からの情報などを書きたし、深く理解するよう努めている。言葉で表せない方には、表情などで判断し、無理強いしない優しい対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を基にミーティング等で報告し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に状況を観察・判断し、本人・家族や医療機関の意見も考慮しながら毎日の申し送りや毎月のミーティングの場で情報の確認・共有をし対応を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、日々のミーティング、家族や医療機関からの情報を基に計画作成し、日々ケアプランに沿った支援をしている。	プランは3か月ごとに見直している。担当者のモニタリングとケアマネージャーの話し合いのもと、主治医の意見書も参考にして、ケア会議を行っている。家族等の同意を得て、利用者の出来る事を一つ一つ積み重ね見極め、変化には素早く対応できるように考え、プランを作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や気づき等も考慮した上で、カンファレンスやミーティングで情報共有及び見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りや、他施設の行事へ参加し、交流を持っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望するかかりつけ医の確認を取り受診している。隣が医院の為、緊急時の対応が可能。	受診は家族の要望を得て、月一回隣の医院へ職員が通院介助し、また、かかりつけ医の往診を受けている利用者もいる。専門科受診については家族の協力を得ている。緊急時は看護師との24時間オンコール体制で指示をあおぎ対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師の為24時間対応が可能。ミーティングにも参加し日々情報を共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	面会をまめにし、医師・看護師と情報交換をしている。又助言を頂いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・職員・医師にて相談を行い、今後の方針を決定、共有し、ケアプランに基づき実践している。	終末期については家族との話し合いで、医療行為が常態化した時点で職員の対応が困難なことを理解して貰っている。現段階では看取りを行える体制にまで至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修会でAED講習会受講。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。	年2回消防署立会いのもと、避難訓練を実施している。消火や避難誘導等について学び、利用者一人ひとりのシミュレーションを行っている。職員は自家発電機や消火器、緊急通報機器の使用方法を習得し、また反省点を次回の取り組みに活かしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として接し信頼関係づくりに努めている。	職員はプライバシーに配慮し、守秘義務については理解し共有している。利用者と話をする時は目線を合わせ、ちゃんと話を聞き、あいまいな返事しないよう心掛け、言葉遣いに注意して不快な思いを与えないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	選択する機会・場を設けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にし、要望に応じ個別に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、買い物の付き添い支援を行っている。理・美容店への対応。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に聴き取り、要望に応じている。外食や出前を取り、気分転換を図っている。	献立は職員が週単位で作成し、家族からの差し入れやホームの畑で採れた野菜などが彩りを添えている。誕生会などの行事食は利用者のリクエストに応え、出前やおはぎ、餅などが人気となっている。また食器拭き、テーブル拭き、野菜の下ごしらえなど出来ることに力を発揮し、役割があることが生きがいのにも繋がっている。	その日のメニューを知らせたり、配膳などに工夫し食事が楽しみなものとなるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態を変え提供。好みの飲み物の提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時誘導や個々のサインを見逃さないように、出来るだけトイレで排泄出来る様支援している。	排泄チェック表をみて、一人ひとりのパターンで誘導している。夜間はナースコールを設置しており、呼び出しにはすぐ対応し、トイレでの排泄に繋いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	好みの飲み物の提供や、水分の自力摂取困難な方には介助を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	拒否のある方にもなるべく週2回は入浴して頂ける様、誘導やタイミングを見計らった声掛けをしている。	入浴はおおむね週2回のペースで、一人で入れる方でも見守りを重視し、また脱衣所との温度差がないよう配慮して、浴後の笑顔が見られるよう支援している。拒否のある方には時間や気分をみながら声掛けし、入浴の気持ち良さを味わって貰えるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、個々の生活リズムに合わせて休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時、申し送りノートで情報共有されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花見やドライブの実施。家事活動の支援。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花の見学や近所への散歩。地域の方々との交流を図っている。	個別には買い物や自宅訪問など要望に沿った支援を行っている。イベント毎にゆり園・ダリヤ園・道の駅などにドライブに出かけ、外気に触れる機会を作っている。冬期間はゲームやトランプ、おやつ作りなどで気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ行った際、好きな物を買って頂き立て替え請求している。家族から一旦お金をお預かりして、小遣いとして本人持ちで使用されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレス電話での対応や携帯電話等で、家族と常に連絡が取れる状態となっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や植物を飾り、花の好きな方に喜んで頂いている。居室・食堂・ホールは季節に応じた装飾をしている。	利用者・家族・職員の手づくりの装飾で季節感があふれた明るい空間となっており、また、こ上がりの和室とソファが配置されて利用者は好きな場所で寛いでいる。また温度管理や感染症対策セットを準備し、感染症予防に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、個人で思い思いに過ごされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より使用している物を持ってきて頂き、本人や家族と相談し意向に合わせた支援を行っている。	それぞれの居室はその人らしい趣きで、仏壇や棚など家から運んだ使い慣れたもので、安心して過ごせるように設えている。掃除は職員が主となり、利用者はモップ掛けなど出きる事を行い、気持ちよく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・廊下に手すりを設置。転倒予防のセンサーの設置や見守りの強化等、予防策を講じてより安全に過ごせるよう配慮している。		